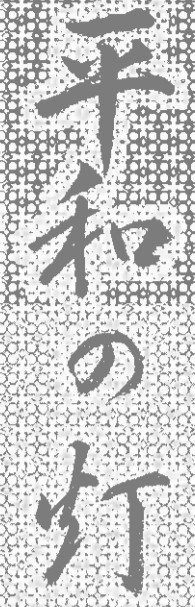


日本兵捕虜6000人の埋葬名簿発見



題字 津留靖尚
戦没者を慰霊し
平和を守る会発行
〒849-0112
佐賀県三善基郡みやき町
大字江口7561
塩川総合企画(株)内
発行責任者 塩川正隆
電話 0942-89-5135
FAX 89-9281
e-mail:senbo-peace@senbobsuya.com
http://www.senbobsuya.com

アメリカ国立 公文書館で

日本政府は戦後、連合国の戦争責任追究を恐れ、戦争に関する資料を大量に焼却していった。

戦没者が遺族の元へ帰るための貴重な資料まで、従って、日本には戦没者がどこで、どのようにして亡くなったか、という資料はない。その結果が、戦後63年が経過したにもかかわらず、戦没者の半数近く、約1万5千人もの方が遺族の元へ帰れずにいる。

当会では、その貴重な資料がアメリカ国立公文書館に米軍の戦闘記録として存在することを知り、調査依頼を行っていたが、このほど「日本兵捕虜6000人の埋葬名簿」が届けられた。

レイテ島パロでは 埋葬場所を 示す地図も

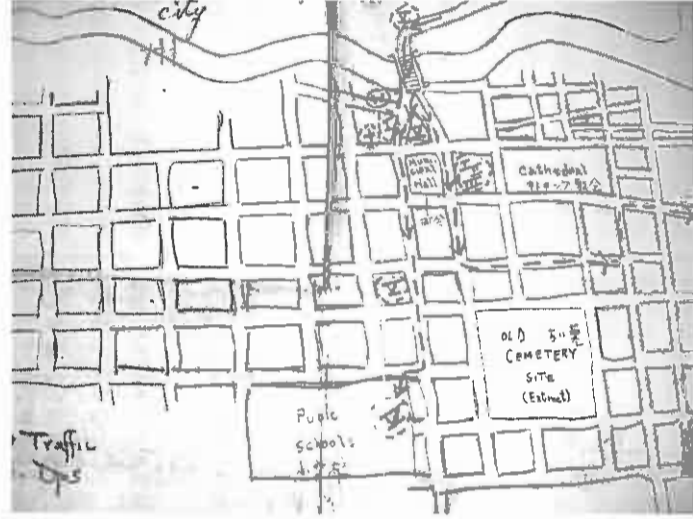
昨年調査と
一致の場所も

日本軍8万人が戦死し、1万5千人しか収容されていないフィリピン・レイテ島のパロという町には戦後、捕虜収容所が設けられたが、その周辺には地図付きで埋葬場所が示されている。



氏名・階級・死亡年月日・死因・埋葬場所

埋葬場所を 示す地図も



3月に現地調査

このような事実を受け、当会副理事長塩川正隆が、3月5日から15日まで現地調査を行い、場合によっては、試掘を行う予定である。

戦没者収容は これから

次はアリユーシャン
列島と硫黄島の
米軍戦闘記録を
戦没者収容はまだこれか
らだ。

今回の名簿発見は、全戦没者240万人の方々の中のわずか6000人に過ぎない。
アメリカ国立公文書館には日本軍と戦ったすべての戦闘記録が保存されているので、この資料を分析すれば、多くの戦没

全国から肉親を捜しての声

今回の名簿発見が、多くの新聞紙上に掲載されたために、全国各地から、「肉親を捜してほしい」というメールや手紙が寄せられた。

戦後63年が経過しようとも肉親の消息を知りたいと願う遺族の気持ち切々と伝わってくる。このような思いに微力ながら応えたい。一人でも多くの方々を遺族の元へ帰すために、今後とも活動を行って行く。

「父を母の胸に 一抱かせたい」

2月1日の読売新聞に、レイテ島にて（ニチマイの調査）米軍が日本兵を埋葬したリストを発見したとの記事が掲載されておりました。私の父はレイテ島にて戦死との公報を受けております。山梨県出身ですが、氏名が分かりませんが、お父様かお母様かどうかわかりません。お父様かお母様かどうかわかりません。お父様かお母様かどうかわかりません。

「伯父の戦死状況は不明」

戦後生まれの戦争を知らない世代ではありませんが、第二次世界大戦が残した大きな傷跡と多くの犠牲については、二度と繰り返されてはいけない歴史であると考えています。

「祖父の戦死場所は」

私の祖父がフィリピンで戦死しているという噂を聞いたのですが、どこでどのような部隊に所属していたか、一切分かりません。名前だけで、部隊や戦死した場所などは分からないのでしょうか？

「伯父が沖繩で戦死」

読売新聞の記事を見て、私も情報分があるようでしたら調べていただきたく思います、メールしました。

「伯父が沖繩で戦死」

読売新聞の記事を興味深く拝見しました。私の

「兄の戦死公報は昭和23年」

私の兄は昭和20年8月6日フィリピン・ルソン島において戦死という公報のみで、関係先に問い合わせしても何も回答してくれませんでした。靖国神社において資料を取り寄せてみましたが、それには昭和40年に合祀ということが示されています。名簿を早く見たいのです。

「国会議員も法制化を約束」

よって行われている。わが国には国の命令で逝かれた方々を国の責任で収容、肉親の元に帰還させるという法律さえ無い。その結果が戦没者の悲惨な現状を生んでいる。

「伯父の戦死状況は不明」

戦後生まれの戦争を知らない世代ではありませんが、第二次世界大戦が残した大きな傷跡と多くの犠牲については、二度と繰り返されてはいけない歴史であると考えています。

「伯父が沖繩で戦死」

読売新聞の記事を興味深く拝見しました。私の

「恥の喪失」と 日本の政治

「恥の喪失」と 日本の政治

「恥」が国家の基盤作用である。ローマでの先達7カ国財務相・中央銀行総裁会議(G7)後の中川昭一財務相・金融大臣の記者会見の報道である。幾度も映し出されるあの姿に怒りやあきれよりも恥ずかしさ、哀しさを多くの国民は感じたのではないだろうか。何故ならそれはとりもなおさず今の日本の政治状況であるからと。

「捕虜名簿に父の名は」

伯父が昭和20年に沖繩で戦死しています。名簿がHPで公表されることを見て見ているのですが、よくわかりません。何か情報があれば教えてください。

「捕虜収容所で自決」

新聞に捕虜名簿の記事が載っていたのを見て、伯父は、ソロモン海戦で乗っていた船が撃沈され、負傷しながら泳いでいるところをアメリカ軍に収容されニューカレドニアの捕虜収容所にいたそうです。しかし収容所の待遇に抗議、反乱を計画していたが、責任を取って自決したそうです。

「HPで情報開示はいくつ」

2月2日付の南日本新聞を拝見し、メルルとさせていただきます。私の母の一番上の兄がレイテ島で戦死しております。名簿の情報開示をホームページとありますが、いっごころになる予定なのでしょうか。

「伯父が沖繩で戦死」

読売新聞の記事を興味深く拝見しました。私の

「伯父が沖繩で戦死」

読売新聞の記事を興味深く拝見しました。私の

「伯父が沖繩で戦死」

読売新聞の記事を興味深く拝見しました。私の

「伯父が沖繩で戦死」

読売新聞の記事を興味深く拝見しました。私の

27人の遺体を収容 懐中時計・手榴弾も 糸満市「ひめゆり学徒散華の跡」周辺で



朽ちた葉に埋もれている頭蓋骨



収容された遺体の一部

第5回「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を昨年11月14日から3日間、実施。当会の会員をはじめ、東京都、神奈川県、千葉県、大阪府からやって来た方など合わせて約40人(20代〜70代)が参加した。

今回、活動を行ったのは、糸満市南端の太平洋に面した荒崎海岸の「ひめゆり学徒散華の跡」周辺。沖縄戦末期、米軍の猛攻撃で学徒や住民、日本兵が追い詰められた場所だ。現在、この一帯は沖縄戦戦跡国定公園となっている。

現場は、のこぎりの術のようにとがったサンゴの岩場やそれに続く雑木林。参加者は5つのグループに分かれ、作業に取り組んだ。雑木林の草、木、蔓などを切り開き、進んでいくと、朽ちた葉に埋もれた頭蓋骨が見つかった。その周辺の地面を丁寧に掘り進めると、10〜20センチの地中から下顎骨、大腿骨、鎖骨、胸骨、肋骨などが出てきた。

岩と岩の間に出てきた小さな空間や岩の奥にぼっかり空いたスペースから大腿骨などが発見された。「こんな所で、亡くなったのか」。初めて目にする戦没現場に衝撃を受けた参加者が口にした。そして「戦後ずっと、こんなところで」と言葉が重なった。地中に埋まっていた土が、やがて黒ずり、土が腐敗臭を放つ。放っておかれた年月の長さを物語っていた。



「ひめゆり学徒散華の跡」。1972年に再建された

また、懐中時計や腕時計、手榴弾、38式歩兵銃の薬莖、火薬が入った銃弾、軍靴を発見した。しかし、身元が特定できる遺品は見つからなかった。当会の専門委員の鑑定で、収容した遺体は27人(頭蓋骨は3人)とわかった。平和祈念公園の中にある「遺骨安置室」に仮安置、参加したメンバー全員で線香、花を供え、戦没者の安らかな眠りをお祈りした。

最終日には、太平洋を望む「ひめゆり学徒散華の跡」前で、ひめゆり部隊の生き証人である宮城さんから当時の悲惨な状況を聞いた。

参加者からのメッセージ —第5回「遺体収容の旅」—

肉親を沖縄戦で亡くした人、同僚に誘われてきた会社員、卒業論文のテーマに決めた大学生...「遺体収容の旅に参加した人の動機も職業も年齢もまちまちだ。でも、思いはひとつ、「戦争の悲惨さをきちんと伝えたい。」

参加者から届いた平和へのメッセージを紹介する。

【いまだ残る 遺骨に驚き】

野島 聡子

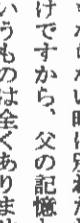


テレビでこの企画を知り、今回初めて参加させていいただきました。別段、わたしの家は、先の第二次世界大戦もしくは沖縄戦で誰かが亡くなっているわけではありません。曾祖父が職業軍人で東南アジアに長い間、滞在していたようですが、戦後無事に帰還していません。しかし、わたしが「戦争」というものに関心を抱くころにはもう、この世にはいませんでした。直接、話を聞くことができなかったことは、すごく残念に思います。

身近に戦争で亡くなった人がいないなど、そういったことから、わたしたちにとって「戦争」は本の中のもの、小説や論文、

【父の最期は どんな様子】

吉田 順子



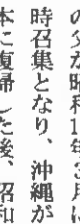
NHKテレビで、この会の活動を知った兄から勧められて、初めて遺骨収集に参加させていただきました。

私の父は、軍人ではありませんでしたが、昭和19年3月に召集されて、昭和20年5月25日に沖縄で戦死ということになりました。

母や周りの人たちから聞いたことや、写真などから父というものを想像することしかできませんでした。今回、荒崎海岸での遺骨収集に当たり、35人の参加者が何班に分けられました。そのひとつが私たちで、兄弟姉妹もいない、という話を聞いて、一人の兄と佐賀県や父の親を沖縄戦で亡くされた方の合計7人でした。その場所が現在では、沢山の若者がサーフィンに集っている海から珊瑚礁の岩場を登ったすぐのところになりました。

【遺骨の早期 収集を望む】

神戸 貞暢



翌日の現地での慰霊祭では、ひめゆり部隊のおひとりであった、宮城さんから当時の凄まじい状況をお聞きし、その後改めて沖縄戦の悲惨さを再認識いたしました。

実は、役人であった私の父が昭和19年3月に臨時召集となり、沖縄が日本に復帰した後、昭和49年ころ、兄弟と家族皆で那覇に1週間ぐらい滞在して、沖縄の知人にも協力してもらって遺骨を探したのですが、結局発見できませんでした。

今回は、ひめゆり部隊のうちの15、6人が自決した場所のある場所の数十メートル上の岩陰で、私たち6人のグループで戦没者の遺体を探したので、7体の遺体が見つかりました。現場に着いてすぐに、地表に2本の頭蓋骨とあばら骨、大腿骨等が散乱しているのが見つかり、見た瞬間は、はっとして、本当に言葉にもなりません。

今から63年前の6月下旬、この荒崎海岸から摩文仁の丘にかけて、生き残った日本軍の軍人と沖縄県民が、米軍の砲撃から逃れるため、右往左往して逃げ回った姿が眼前に浮びました。

2体は頭蓋骨が見つかりませんが、散乱した遺骨のほかに、手榴弾、38式歩兵銃の薬莖(やつきょう)が多数、ピストルの火薬入り銃弾、懐中時計、軍靴の一部などが出てきました。



当時の状況話す宮城さん(中央)

テレビの映像で見ると、実際に現地に行くのとでは、当たり前ですが、全く違いました。実際、そのものを目の当たりにしたときに自身の内から湧き上がる感情に戸惑いました。貴重な体験でありがとうございました。次回もまた、参加させていきたいと思います。

(京都府)



宮城さんの話に思わず涙ぐむ参加者

現地のボランティアの方々が、木々や蔓を切って入りやすくしてくださり、そこから7体の遺骨と薬きょうや軍靴のはし切れなどが沢山掘り出されました。頭蓋骨、大腿骨など、夢中で掘ったり拾ったりしましたが、少しも恐ろしいとか怖いという気持ちにはなりません。どなたの遺



真っ青な太平洋が目前にある



活動の場はびっしり草木に覆われていた



遺体を収容。

自宅の庭に実った柿を供えた

争を行った国として、他国からの反感を今でも背負って生きていかなければなりません。64年も経つのに何故、戦争に関係のない私たちが何時まで反感を買わな



黙々と捜し続ける

「国が責任を」 持つて収容を「あつては」 ならぬ「放置」

「第32軍司令部の出入り口のひとつです」と説明するガイドさんとそ

「鏡」があらわれた。島さりと一結のときです。新

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

の慰霊の為にも、ご遺族の為に、是非1日も早く遺骨を国へ返して収集し、戦没者墓苑に祭ってほしいと思います。

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

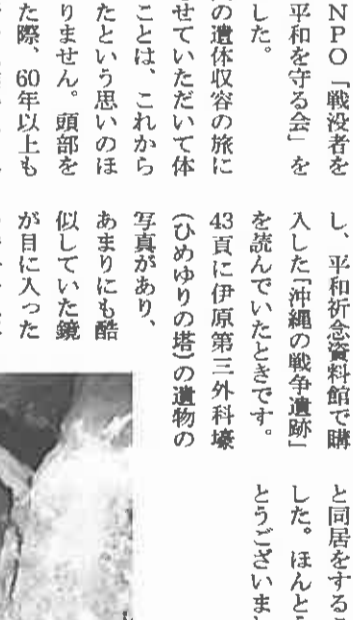
「あつては」 ならぬ「放置」



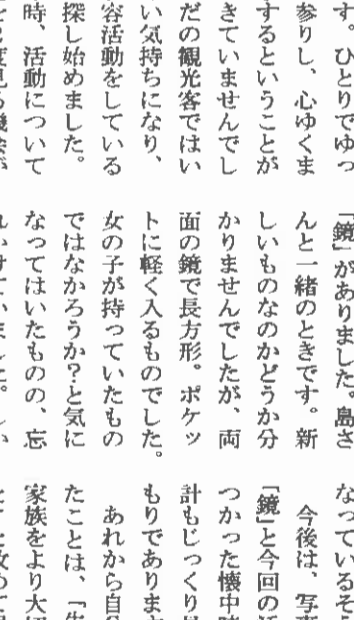
沖縄県が管理する遺骨安置室の裏側。ゴミ袋に入れられた遺体もあった(平和祈念公園内)



岩と岩のすき間を腹這いになって進む。奥に大腿骨があった



遺体の発掘は根気がある作業だ



「あつては」 ならぬ「放置」



「あつては」 ならぬ「放置」



「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

「あつては」 ならぬ「放置」

戦没者埋葬の在り方を問う

佐世保釜墓地・沖縄県奉賛会・千鳥ヶ淵墓苑 どちらが真実か佐世保市「釜墓地」

沖縄戦 戦没者は ゴミ扱い

アメリカ国立公文書館に依頼していた米軍の戦闘記録の中に、捕虜収容所の約6000人の氏名入りの日本兵埋葬地リストが発見された。

その中に、フィリピン・ルソン島のカンルーバン収容所などで亡くなられた約5000人の戦没者の方々の名が記されていた。

この遺体は1949年(昭和24年)1月にアメリカ政府から「遺族に帰して」と名簿を添えて日本政府に送還されたものだ。

その方々を埋葬している墓地が長崎県佐世保市に「釜墓地」として存在する。

本来なら遺族に帰ったはずの遺骨だが、遺族は「帰っていない」と言われている。

当会としても、看過できない問題なので、厚生労働省に聞いてみたが、回答は「遺体は火葬して遺族に帰した。身元不明の遺骨は千鳥ヶ淵墓苑に納めている。釜墓地にあるのは焼却したときの灰だ。」とのことであった。

国は帰した。遺族は帰っていない。どちらが真実か。墓を掘って改修工事を行えば、真実が明らかになるのでは…?

昨年11月14日から16日まで「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を行った。

全国各地から約40人の参加があった。収容場所は沖縄県糸満市荒崎海岸の雑木林だ。

作業は11月15日、27人の遺体を収容した。翌16日、遺体を安置するために沖縄県が管理する「遺骨安置室」に行きつづけた。

遺体はゴミ袋に詰められたまま直接床に積み上げられ、まさにゴミ同然の扱いを受けていた。

早速、厚生労働省に改善を申し入れた。その折に関東地区にお住まいの参加者の方が厚生労働省の官僚に怒りをあらわに言われた。「あなた方がやっていることは人間のすることではない。これに対し、厚生労働省の返答はなかった。

この会報は全国の遺族に無料で送っているが、遺族の皆さん、これが「日本の繁栄は戦没者の尊厳犠牲があったから」と常々言っている日本政府の扱いだ。

ここは日本。海外では戦没者がどのような悲惨な扱いを受けているか、同じ敗戦国であるドイツでは、国が相手国に賠償金を支払って戦没者の収容を行っているのと同じく、遺族として、いまやらないとあの世で父親に叱られる。

6月23日は沖縄の戦争犠牲者の慰霊式典が催されるが、「遺骨安置室」がどのように改善されているか見るのが楽しみだ。

2008年10月14日から18日までアメリカ・ワシントンにある国立アーリントン墓地を訪問した。

墓地埋葬法の許可がないまま違法な状態で、千鳥ヶ淵墓苑や沖縄国立墓苑に63年も仮安置を続けている日本の戦没者とアメリカの戦没者の扱いの違い。

太平洋戦争で、日本政府(大本営)は民間人を

含めると、300万人を超える日本人の犠牲者を出しながら、誰も責任を取らなかった。責任を取るところか当時の閣僚が戦後首相にまでなった人がいる。

その事実をいままら責めるつもりはないが、それを受け継いでいる日本政府は戦没者に対する戦争責任は取るべきだ。

それは海外に放置された戦没者を収容し、遺族の元へ帰すことだ。それが不可能なら、いつまでも千鳥ヶ淵墓苑の仮安置という違法な状態を改め、一人一人の墓標を立てた国立墓地を造り、戦没者を合法的な墓地に埋葬するべきだ。

違法な状態はいつまで「千鳥ヶ淵墓苑」



千鳥ヶ淵墓苑



アーリントン



釜墓地



沖縄安置室

活動の記録

(2008年9月から2009年2月)

9月4日
午後2時～3時
厚生労働省申入れ
議題

- 1、DNAデータベース化について
- 2、沖縄県若桜の塔発掘調査、ポリーング調査結果報告
- 3、フィリピン・レイテ島十字架山調査結果
- 4、沖縄県首里城公園地下壕ポリーング調査申入れ
- 5、その他

9月7日
午前10時～12時
戦没者追悼を正す全国連絡会

- 1、このままで何人の日本の要人の方々が訪れたかはわからないが、一方、日本に外国の要人が訪れた際には、案内する場所がないのが現状だ。日本政府は無宗教の追悼施設が必要だ、とあと何十年言いつづけていくつもりだろうか。
- 2、それは海外に放置された戦没者を収容し、遺族の元へ帰すことだ。それが不可能なら、いつまでも千鳥ヶ淵墓苑の仮安置という違法な状態を改め、一人一人の墓標を立てた国立墓地を造り、戦没者を合法的な墓地に埋葬するべきだ。

10月14日～18日
塩川副理事長アメリカ訪問
アメリカ国立公文書館
アーリントン墓地
11月14日～16日
沖縄戦戦没者遺体収容の旅
参加者 約40人

11月28日
午前10時～11時
国会議員説明会
議員会館会議室
(参加者本人18人、代理13人)

12月15日
午後1時30分～3時
厚生労働省申入れ
議題

- 1、若桜の塔発掘調査申入れ
(前回と同じ、沖縄県からの回答が不

誠実であったため

- 2、沖縄県大里陣地壕遺体のDNA鑑定結果と発掘調査について
- 3、沖縄県荒崎海岸発掘調査報告と再調査の申し入れ
- 4、沖縄県「遺骨安置室」の改修申し入れ
- 5、フィリピン・レイテ島十字架山周辺の調査申入れ
- 6、アメリカ国立公文書館資料収集についての申し入れ
- 7、ガダルカナル島調査について
- 8、その他

2009年2月2日
午後2時～3時
厚生労働省申入れ
議題

- 1、沖縄県若桜の塔発掘調査について。(沖縄県の調査が進まなため)
- 2、沖縄県大里陣地壕の発掘調査について。(沖縄県の調査が進まなため)
- 3、沖縄県荒崎海岸再調査について(沖縄県の回答が不誠実なため)
- 4、アメリカ国立公文書館の資料収集について

2月8日
午後6時
太平洋戦争捕虜収容所埋葬者リスト入手
(株)ニチマイ戸部所長帰国
午前10時～11時
韓国大使館訪問
太平洋戦争捕虜収容所埋葬者リストに韓国人はいないかの問い合わせがあったため。

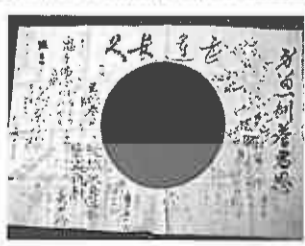
2月11日
午後1時
長崎県佐世保市「釜墓地」訪問
事務局会議
午後6時～8時

3月5日～15日
フィリピン・レイテ島戦没者埋葬地調査

今後の日程

- ① 1944～1945年頃依頼者の義父がビルマより持ち帰ったもの。大坂金属工業株式会社・淀川航空機製作所などのメッセージが書かれている。
- ② 祝出征小栗君のメッセージから「小栗さん」に贈られたものと思われる。母、セイなど名前の寄せ書きがされている。
- ③ シンガポールの物売りで見つけ、遺族に返しただけ、2枚購入されたが、その術が分らず滋賀県より当会に依頼されたもの。
- ④ 1枚目は高瀬姓の方のメッセージに亮兄さんとおあることから「高瀬亮さん」に贈られたものと考えられる。

「河村正男さん」に贈られたものと考えられる。依頼者が病気の為、一日も早く持主に返してほしいと当会にイギリスより送られてきた。



④ 2枚目は少尉・曹長など階級で寄せ書きされているが贈られた方は分からない。

日比合同 慰霊式展 (フィリピン・レイテ島) 開催について

日時 2009年 7月25日(日)～8月2日(日)

場所 フィリピン・レイテ島・ルソン島 費用 20万円

(日程は、飛行機の運行状況により、変更になる場合があります。また、レイテ島直行ができなくなったためマニラ2泊が加わり割高になります。)

会員募集

アメリカ国立公文書館に日本軍と戦った戦闘記録が保存されていることがわかりました。戦闘記録を辿ると日本兵がどこで、どのようにして亡くなったかがわかります。戦没者の遺体収容はこれからです。多くの皆様が加入されるのを待ちたいと思います。

新会員紹介

会員の方々も年々増え続けております。本コーナーでは新会員になられた方々を紹介してまいりたいと思います。

募金のお礼

当会の活動に全国各地から多くの方が募金を寄せてくださいました。この会報を通じ厚く御礼申し上げます。当会の活動は皆様の会費と募金で運営しております。ご協力をお願い致します。